

ビレーズトリ・エアロスフィアの新デバイスについて

■初めに

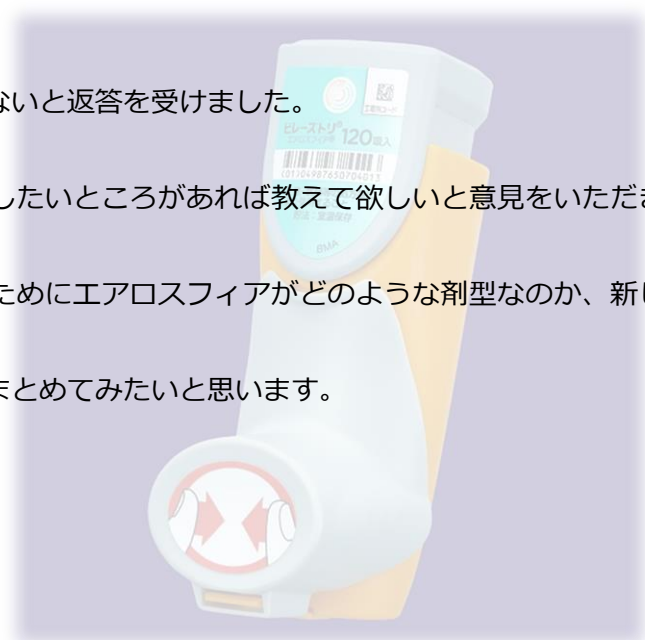
今回のコラムでは喘息治療薬のデバイスの中でも一番新しい、エアロスフィアについて書くという機会をいただきました。

エアロスフィアには ICS/LAMA/LABA 製剤のビレーズトリと LAMA/LABA 製剤のビベスピがあります。このうちビレーズトリは 2022 年の 6 月に吸入器のデザインが変更されています。そのため連携会のホームページでも新デザインの手順評価表を作成しました。

ただ当院では、エアロスフィアが院外限定での採用なため実際に患者が持参してきた時にしか触れる機会がありません。今回のコラムを書くにあたって実際に指導している薬剤師にアドバイスをもらおうと門前薬局の薬剤師さんに、デバイス変更したことによる患者さんの評判などはどうですかと尋ねてみました。

…結果は可もなく不可もなく特に何も言われていないと返答を受けました。

逆に指導に活かせるように、メーカーがアピールしたいところがあれば教えて欲しいと意見をいただきました。今回はなかなか触れる機会が少ない方のためにエアロスフィアがどのような剤型なのか、新しくデザインが変わったことで何が良くなったのかまとめてみたいと思います。

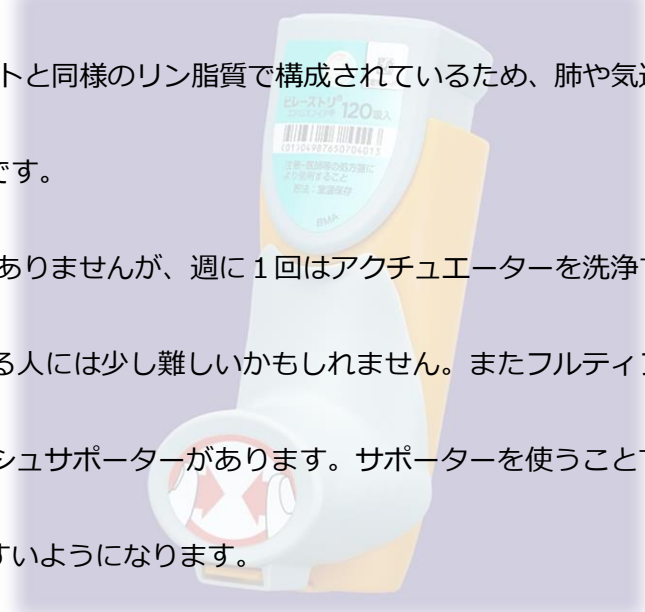




■エアロスフィアとは

エアロスフィアは2019年9月に販売を開始したビレーズトリ及びビベスピに採用されている、最も新しいpMDIの剤型です。エアロスフィアの特徴としては、薬剤を多孔性粒子である担体に接着させ、肺の中核から末梢の気道まで送達することを目指して開発されたエアロスフィアという薬剤送達技術を使用しています。粒子が薬剤結晶と比較して軽くなっているため吸入力が弱い方でも吸入しやすく出来ています。また多孔性粒子は、肺サーファクタントと同様のリン脂質で構成されているため、肺や気道の表面に沈着しやすくなっているのも特徴の一つです。

吸入手技は基本的に他のpMDIとそう変わりはありませんが、週に1回はアクチュエーターを洗浄する必要があります。認知症や高齢で理解力が落ちている人には少し難しいかもしれません。またフルティフォームなどと同じように噴霧をサポートするプッシュサポーターがあります。サポーターを使うことで吸入手技が出来る人なら手の力が弱くても使いやすくなります。



■ 3つのアピールポイント

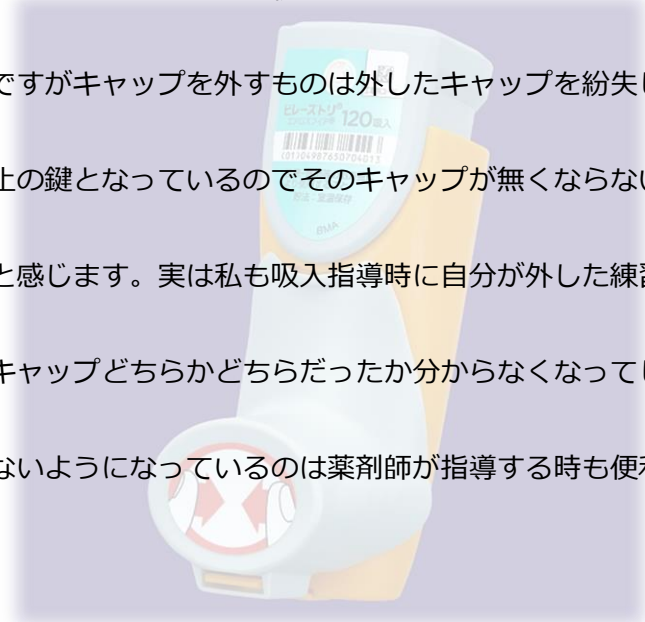
冒頭で述べた通りにビレーズトリ・エアロスフィアですが、2022年の6月に剤形変更がありました。

この剤形変更でアストラゼネカのMRさんが教えてくれたアピールポイントは3つあります。

一つ目はインジケーター（残量ゲージ）の目盛を大きくしたことです。元々のビレーズトリにもゲージはありましたが、20吸入ごとに数字が書いてあるもので細かい残量は分かりづらいものでした。新しい剤形では5吸入刻みで上部の全面がインジケーターになっており非常に見やすく、残量も分かりやすくなっています。これなら洗浄して空噴霧をしても残量が分かりやすく不足する前に病院に受診する目安になりやすいと思います。

次の二つ目は吸入口のキャップを装着時に誤噴霧防止のためのロックがかかるようになったことです。エアロスフィアは元々上部を押し込むことで薬剤を噴霧しますが、カバンなどに入れた際うっかり押されて誤噴霧してしまうことがありました。今回の変更でキャップさえつけておけば誤噴霧されることは無くなり、旅行や出張の際にも持ち運びしやすくなったと思います。

最後のポイントはキャップと吸入器本体が一体化しキャップの落下や紛失する可能性が無くなったことです。フルティフォームなど他の剤形でもそうですがキャップを外すものは外したキャップを紛失してしまう可能性があります。キャップが誤噴霧防止の鍵となっているのでそのキャップが無くならないように工夫されているのはとても便利な変更点だと感じます。実は私も吸入指導時に自分が外した練習用のデバイスのキャップと患者さんのデバイスのキャップどちらかどちらだったか分からなくなってしまうことがありました。ですのでキャップが外れないようになっているのは薬剤師が指導する時も便利になったと思っています。



今回は新しいエアロスフィアの変更点について詳しく書いてみました。患者さんへ変更点について説明する時に参考にしてみてください。

(文 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 薬剤部 柳田絢子)

